

| | | | |
|--|--|--|--|
| 企業名 | アマタ株式会社 | | |
| 企業代表者名 | 代表取締役 末次 貴英 | | |
| 保有する環境技術 | 多種多様な産業廃棄物の100%リサイクルを可能にする独自の「調合」技術 | | |
| 所在地 | 東京都千代田区神田鍛冶町3丁目6番地7 ウンピン神田ビル5階 | | |
| HP アドレス | アマタ株式会社:https://www.amita-net.co.jp/ グループ:https://www.amita-hd.co.jp/ | | |
| ① アジア低炭素化センターとの主な連携実績 | | | |
| 期間 | 対象都市 (国名/都市名) | 概要 | |
| 2014年1月～ 現在 | マレーシア (イスカンダル地域、セランゴール州) | 2014年から、マレーシアにおける100%リサイクル (産業廃棄物のセメント原料化・燃料化) の事業化に向けた、市場調査およびFS調査などを北九州市と共同実施。 | 事業実施中 |
| 2014年5月～ 2015年3月 | インドネシア (スラバヤ市)、ベトナム (ハイフォン市)、パラオ (全域) | JICA、環境省、経済産業省補助事業を活用し、リサイクル事業等の市場調査、事業性検討等を北九州市と共同実施。 | FS調査継続中 |
| 2019～2021年 | インドネシア (ジャワ島) | 北九州市「サステナブル環境ビジネス展開事業」に採択 | FS調査継続中 |
| ②当該企業の国内/国外実績 | | | |
| <p>(1) 100%リサイクル 国内外6か所の循環資源製造所と3か所のパートナーズ工場、300を超える再資源化事業者ネットワークを保有。約30年にわたり、4,000種類をこえる産業廃棄物の100%リサイクルを実施。</p> <p>(2) K-CEP (九州サーキュラー・エコノミー・パートナーシップ) 「九州エリアにおける資源の最適循環」「持続可能な社会の実現に資するビジネス創出」を目指す、産官学民連携の共創型プラットフォーム「K-CEP」を2020年2月に発起し、事務局を務める。現在、使用済みプラスチックの回収実証実験「MEGURU BOX (めぐるボックス) プロジェクト」を、北九州市にて実施。 参考リリース</p> <p>(3) コンサル・環境管理業務支援、環境認証審査サービス コンサルティング・調査業務、環境教育、廃棄物管理のクラウドサービス Smart マネジメント (e-廃棄物管理) を提供。また、持続可能な資源調達を支える国際的エコラベルの認証・審査サービスを提供。</p> <p>(4) 海外でのサービス展開 (マレーシア) 2015年12月にアマタの現地法人とベルジャヤグループによる合弁会社 AMITA KUB-BERJAYA KITAR SDN. BHD. (現・AMITA BERJAYA SDN. BHD.) を設立、2017年5月にはセランゴール州にて100%リサイクル工場「AKBK循環資源製造所 (現・アマタベルジャヤ循環資源製造所)」を開所。</p> | | | |
| ③海外展開方針 | | | |
| 方針 | インドネシアにおける100%リサイクルサービスの展開 | | |
| 実施体制の希望 | <input checked="" type="checkbox"/> 現地で事業実施 <input type="checkbox"/> 販売のみ | <input checked="" type="checkbox"/> 現地企業と合弁 <input type="checkbox"/> 日系企業と合弁 | <input checked="" type="checkbox"/> 単独 |
| 展開先希望 (国、都市、地域など) | インドネシア西ジャワもしくは東ジャワエリア | コンサルの活用希望 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 展開分野 (検討・予定含む) | B3 (有害) 廃棄物の100%再資源化 (セメント向け原燃料事業) | | |

④海外のニーズに対応可能と考えられる技術・ノウハウ

※ 対応可能規模、独自性・競争優位性、将来展望等

○技術内容

多様な産業廃棄物を受入・分析し、独自技術である『混合』技術を用い、セメント製造工場向けの代替原料/代替燃料を製造する。当社は40年にわたる再資源化事業において蓄積された4,000種を超える廃棄物の分析データおよびシミュレーションノウハウにより、廃棄物の特徴である成分、性状、発生量、発生時期等の不安定課題を解決し、適正に混合することで安定した品質と量の代替原燃料に加工することが可能である。再資源化工程においては、火、水および化学薬品を使用せず、2次廃棄物も発生しない100%再資源化システムである。

○東南アジアへの展開

インドネシアとベトナムが足元のターゲット国であるが、人口1人あたりのGDPが6,000USDを越え、製造業が盛んで、現地にセメント会社があれば、当社の廃棄物の100%再資源化技術のニーズは高いと予想されるため、新たな市場として展開の可能性がある。

○競争優位性・将来展望

2017年5月の製造所設立から4年4カ月を迎え、現在はマレーシア国内全体における、資源循環プラットフォームのマーケットリーダーとしてのポジション確立を目指す。今後マレーシアを含むアジア諸国において、持続可能な産業へのニーズが高まることが予測される中、国内のコンサル・環境業務支援サービスでのノウハウを活かし、リサイクルによる個別の環境課題解決を超えたサプライチェーン全体の持続性を高める「循環型ビジネスモデル」の構築支援などの事業展開を検討中。



| | |
|---|---|
| <p>(1) 他社とのコラボ等に関する要望</p> | <p>地域活性化、脱炭素、サーキュラーエコノミー化に関する事業展開をパートナー会社と連携して進めている。この分野で可能性があれば、積極的に協業を検討する。</p> |
| <p>(2) 当該企業の将来性や今後の展開に対する期待 (IGES コメント)</p> | <p>セメント製造工場での産業廃棄物受入れは、国内の循環型社会構築を足元で支えてきた技術であり、アマタ株式会社のセメント製造工場向けの代替原燃料製造を通じた100%リサイクルモデルは、今後循環型への社会移行を進める国において有望な技術だと思われる。今後、対象国の市場において、セメント製造工場での産業廃棄物受入れの慣習が広がれば、当社の事業展開の可能性が更に高まっていくと考えられる。そのためには、セメント製造工場での廃棄物の受入れに関する理解の醸成、関連法令の整備、排出事業者とのネットワーク構築などが必要である。当社は既にマレーシアでの事業展開に成功しており、マレーシアの循環資源製造所をショーケースに活用し、現地の行政機関や現地企業との連携を進める優位性を持っており、更に隣国への第三国展開に繋がることを期待する。</p> <p>一方、製造業においてサプライチェーンを通じた循環経済への移行が進む中、コンサルティング・環境業務支援サービスに関するニーズも増えていくことが予測され、「循環型ビジネスモデル」の構築に関するソフト支援と併せた事業展開が進むことが期待される。</p> |